

調査票 4 地方創生交付金関連事業 K P I 一覧表について

○平成 26 年 11 月の「まち・ひと・しごと創生法」施行以降、複数の地方創生関連の交付金が造成されています。総合戦略、総合計画を進める上で、市の一般財源を抑制する、という観点からも、必要な事業を見極めて効果的に活用していくことが重要であると考えています。

ここでは、総合計画改訂版の開始年度である、平成 29 年度に採択を受けた地方創生関連の交付金について、記しています。

<主な状況(まとめ)>

○平成 29 年度に実施した交付金関連事業は全部で 4 件です。

○交付金の種別ごとの内訳は次のとおりです。

(1) 地方創生拠点整備交付金 1 件

(2) 地方創生推進交付金 3 件

(1)はH29年度のみ単年度事業ですが、(2)は3年間継続(29-31)する事業となります。

○K P I として設定しているのは、全体で 14 項目あります。うち、指標を達成しているのは、6 項目でした(全体の 42.8%)。

※K P I のうち「木曾川うかい事業による木曾川観光の売上額(円)」は決算前であり、数値として把握していないため未達成の扱いとしています。

○4 事業のうち、K P I を全項目達成した事業はありませんでした。また、達成していないもののうち、数値が「0(ゼロ)」となった項目は 3 項目になりました。今後も事業は継続して実施しますので、引き続き数値を達成するための取組みが必要と考えます。

※各事業の詳細は別添資料をご覧ください。

■地方創生交付金関連事業KPI一覧表

【調査票4】

①種別	②交付対象事業の名称	③事業の概要・目的	④KPI		⑤結果(数値) H29	⑥分析・評価	⑦備考	⑧担当課	
			指標値	目標年度					
推進交付金	「農」あるシルバーは地域を救う！若者と共に農業で大活躍プロジェクト	<p>シルバー人材センターが「農の拠点」を整備し、高齢者でも低負担で耕作でき、高品質で一定の収穫量を維持できるアイメック農法によるミニトマトの栽培を行う。収穫したミニトマトの販売により収益を得る。</p> <p>また、販路開拓・ブランド化を進め、付加価値を高めることで収益の向上を図るとともに、高齢者のやりがい・生きがいのさらなる醸成につなげる。</p> <p>加えて、シルバー会員が市内高齢農家への農作業支援を実施することにより、耕作放棄地の抑制につなげていく。</p> <p>【平成29年度】 総事業費： 10,644千円 対象経費： 5,322千円 交付決定額：5,322千円(交付率1/2)</p>	農作物の収穫量(kg)	100	H29	0	ビニルハウスの整備の際に周辺農業従事者との調整等を丁寧に行ったことで時間を要したため、収穫予定時期が3月末から4月以降へ先送りになった。このため、平成29年度の収穫量は0kgとなるが、2年目の収穫量は2年分を合計した6,100kgより多くなる見込みであるので、KPI増加分の累計は交付申請時と変わらないもしくは増加する。		産業課
			耕作・販売に従事した会員数(人)	20	H29	46	耕作については、1月末～2月にかけて苗の定植を実施。会員でチーム編成し、交代で栽培管理を行っている。また、農業技術研修会を開催。販売については、販売先や商品名・パッケージ・広報等についての検討を実施しており、今後栽培状況を見ながら具体的な調整を進めていく。	苗定植・栽培管理6人・プロジェクトチーム20人・農業技術研修会参加者20人	産業課
			高齢農家への支援件数(件)	0	H29	0	トマト栽培での技術や知識習得を経て、シルバー会員による市内の高齢農家への支援を実施する計画であるため、平成30年度以降の実施を予定している。		産業課
			農作物の販売額(円)	0	H29	0	上記収穫に合わせて販売を実施していくもの。販売先との調整を進めている。		産業課
	守れ伝統！はばたけ鶴飼！水辺が活躍する地域づくりプロジェクト	<p>伝統漁法を守る若き船頭を育成するため、木曾川観光(株)のベテラン船頭が指導員となり、舟の舵をとる責任者「とも乗り」候補生を育成する。また、若手農業者団体「犬山農芸」が、先輩指導員として、若手見習い船頭をとも乗りの助手「なか乗り」として育成する。</p> <p>市観光協会と連携し、日本の伝統漁法である「木曾川うかい」の魅力をPRし、外国人観光客を積極誘致。将来的には、若手船頭が、増加する外国人観光客へのおもてなし対応力を高め、インバウンド需要の取込みを図る。</p> <p>【平成29年度】 総事業費： 14,067千円 対象経費： 14,067千円 交付決定額：7,033千円(交付率1/2)</p>	木曾川うかい乗船者数(人)	23,500	H29	25,724	昼うかい観覧者数8,756人、夜うかい観覧者数16,968人で、前年より昼うかい874人増、夜うかい669人増となった。天候不良による川止め回数は前年より少なかったことや、乗船率を上げるよう出船時間直前まで、乗船受付をしたことにより、乗船者数は伸びている。		観光交流課
			見習い船頭の乗船回数(回)	225	H29	225	計画回数は達成しているものの、一人前になるには5、6年の経験が必要である。平成31年度までに、鶴舟のとも乗り船頭を3人合格するよう、継続的に育成していく。		観光交流課
			一人前の船頭となり就労している若手船頭の数(人)	0	H29	0	一人前の鶴舟船頭となるには、少なくとも5年以上の経験が必要であり、地方創生交付金の計画では、平成31年度末時点で、とも乗り3人の合格を目指していくもの。	鶴飼漁は、鶴舟に、鶴匠1人、なか乗り1人、とも乗り1人が乗船し行う。	観光交流課
			木曾川うかい事業による木曾川観光(株)の売上額(円)	79,500,000	H29	-	木曾川観光(株)の売上額については、平成29年度決算額が未確定とのことで、うかい乗船者数の増加に伴い売上額は前年より増額となると思われる。		観光交流課
	市民がまちを創る！人材活躍の場づくり事業	<p>多様な主体が繋がり、場や機会とのマッチングを可能とする為、人材バンクを構築。人的資源の見える化を図る。また市民活動に直接参画することのなかった民間施設等で、賛同を得た場を「活躍の場」として認定する。</p> <p>様々な分野の人が集い地域や行政の課題解決に向けた「経営感覚を伴った事業型の活動」を生み出し、実施していくための新しい受け皿となる対話の場「(仮)フューチャー・セッション・スペース(FSS)」を開催。モデル事業を企画・実施する。</p> <p>事業の初期段階は、市が新設する「活躍の場づくり補助金制度」に申請するなどして一定の事業費支援を受ける。併せて、このような新たな取り組みを将来に亘り実施していくためのルール作りを市民参加型で行い、地域づくりのための理念共有を図る。</p> <p>【平成29年度】 総事業費： 20,977千円 対象経費： 20,977千円 交付決定額：10,488千円(交付率1/2)</p>	「(仮)フューチャー・セッション・スペース」に参加したのべ人数(人)	50	H29	172	1年目は参加者の関係性づくりとトライアル事業の企画実施に重点を置き実施し、人が人を呼び、入れ替わりながら毎回20名強の参加者を得ることができた。		地域安全課
			「活躍の場」として設定し、「(仮)フューチャー・セッション・スペース」で活用した商業施設のうち、売り上げの増加につながったと回答した数(件)	25	H29	0	活躍の場の掘り起こしについては、事業所などがまちづくりに関わることが浸透しておらず、具体的な活用内容も不透明であり、事業者側の理解を得られにくかった。今後は事例を交え社会貢献と共に企業価値を高めるCSVを啓発していく。		地域安全課
			「(仮)フューチャー・セッション・スペース」で企画・実施した事業数(本)	3	H29	4	トライアルとして企画、実施することができ、参加者間の連携や事業所の協力も得ることができた。		地域安全課

■地方創生交付金関連事業KPI一覧表

【調査票4】

①種別	②交付対象事業の名称	③事業の概要・目的	④KPI		⑤結果(数値) H29	⑥分析・評価	⑦備考	⑧担当課	
			指標値	目標年度					
拠点整備交付金	シルバーと若者が農で大活躍！農業活性化プロジェクト	<p>シルバー人材センターが「農の拠点」として、ミニトマトを栽培するためのビニルハウスを整備する。 高齢者でも低負担で耕作でき、高い品質を維持できるアイメック農法で栽培するミニトマトを市場に出し、収入を得ることで、農業事業に関する経費を賄える水準を目指す。</p> <p>事業実施により、高齢者の就業機会の確保や生きがいづくりに資するとともに、センターの経営的自立に向けた収益性の向上を図る。</p> <p>【平成29年度】 総事業費： 59,293千円 対象経費： 37,482千円 交付決定額： 18,741千円(交付率1/2)</p>	農作物の収穫量 (kg)	100	H29	0	ビニルハウスの整備の際に周辺農業従事者との調整等を丁寧に行ったことで時間を要したため、収穫予定時期が3月末から4月以降へ先送りになった。このため、平成29年度の収穫量は0kgとなるが、2年目の収穫量は2年分を合計した6,100kgより多くなる見込みであるので、KPI増加分の累計は交付申請時と変わらないもしくは増加する。		産業課
			耕作・販売に従事した会員数 (人)	20	H29	46	耕作については、1月末～2月にかけて苗の定植を実施。会員でチーム編成し、交代で栽培管理を行っている。また、農業技術研修会を開催。販売については、販路先や商品名・パッケージ・広報等についての検討を実施しており、今後栽培状況を見ながら具体的な調整を進めていく。	苗定植・栽培管理6人・プロジェクトチーム20人・農業技術研修会参加者20人	産業課
			高齢農家への支援件数 (件)	0	H29	0	トマト栽培での技術や知識習得を経て、シルバー会員による市内の高齢農家への支援を実施する計画であるため、平成30年度以降の実施を予定している。		産業課